



環境福祉学会

News Letter

ニュースレター October 2013

24

目次

第9回年次大会開催のお知らせ	1
公開セミナー基調講演 「環境福祉学からCSRを考える」	2
公開セミナー講演要旨①	3
公開セミナー講演要旨②	4
組織及び役員一覧・事務局だより	4

環境福祉学会 事務局 株式会社環境新聞社事業部内
〒160-0004 東京都新宿区四谷3-1-3 第1 富澤ビル
TEL. 03-3359-5349 / FAX. 03-3359-7250
<http://www.kankyofukushi.jp/>
E-mail: info@kankyofukushi.jp

第9回年次大会は、11/17（日）東京で開催！

大会テーマ「激動する日本経済下の環境福祉」

環境福祉学会 第9回年次大会概要

開催日：平成25年11月17日（日）

会場：飯田橋レインボービル&家の光会館

〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町11番地 TEL. 03-3260-4791

大会実行委員長：炭谷 茂（学会副会長 / 恩賜財団済生会理事長）

プログラム：

〈一般研究発表〉

10：00～12：00 第1～第3分科会（飯田橋レインボービル）

〈公開シンポジウム〉（家の光会館7F・コンベンションホール）

13：15～13：30 開会挨拶

13：30～14：15 記念講演 山本良一（東京大学名誉教授）

「未来を拓くエシカル購入」

14：30～16：30 パネルディスカッション

「激動する日本経済下の環境福祉」

コーディネーター：永井伸一（学会監事・獨協医科大学名誉教授）

パネリスト：炭谷 茂（学会副会長 / 恩賜財団済生会理事長）

基調報告：「日本経済と環境福祉」

水木伸明（北陸グリーンエネルギー研究会）

「廃アルミリサイクルで新産業創出」

近澤行洋（いばらぎ自然農塾）

「刑務所出所者による有機農業」

17：00～18：30 懇親会

参加費：大会参加費 5,000円（学生3,000円）

懇親会参加費4,000円（学生2,000円）

環境福祉学会 2013
第9回年次大会
大会テーマ 「激動する日本経済下の環境福祉」
日 時 平成25年11月17日（日）10:00～16:30
会 場 飯田橋レインボービル&家の光会館（東京都新宿区）
〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町11番地
TEL. 03-3260-4791
JR 地下鉄飯田橋駅（徒歩約5分）

実行委員長 炭谷 茂（環境福祉学会副会長 / 恩賜財団済生会理事長）

7099円 10:00～12:00 一般研究発表会（飯田橋レインボービル）
第一分科会 1F 環境政策
第二分科会 1F 社会政策
第三分科会 2F 経済政策

13:15～16:30 公開シンポジウム（家の光会館7F・コンベンションホール）
記念講演 「未来を拓くエシカル購入」
山本 良一（東京大学名誉教授）

パネルディスカッション
「激動する日本経済下の環境福祉」
基調報告：炭谷 茂（学会副会長 / 恩賜財団済生会理事長）
コーディネーター：永井 伸一（学会監事・獨協医科大学名誉教授）
パネリスト：炭谷 茂（学会副会長 / 恩賜財団済生会理事長）
近澤 行洋（いばらぎ自然農塾）

17:00～18:00 懇親会

大会参加費 5,000円（学生3,000円）※学生は公開シンポジウムの参加費のみ無料
懇親会参加費 4,000円（学生2,000円）

後援：環境省、厚生労働省（予定）、環境新聞社、福祉新聞社、NPO法人エコリンク21環境政策研究センター
協賛：飯光洋、飯田橋駅、三協興産

第9回年次大会事務局 〒160-0004 東京都新宿区四谷3-1-3 第1 富澤ビル
TEL. 03-3359-5349 FAX. 03-3359-7250
<http://www.kankyofukushi.jp/>

環境福祉学会平成25年度公開セミナーは、平成25年6月2日（日）に東京都千代田区の主婦会館において、「環境福祉学からCSRを考える」をテーマに、コーディネーターの伊澤敏彦当学会監事のもと開催されたが、今回はパネリスト3名の講演要旨を紹介する。

「環境福祉学からCSRを考える」

恩賜財団済生会理事長 / 当学会副会長

炭谷 茂 氏

CSRは「企業の社会的責任」という単語の頭文字を取ったものです。CSRがどこの国から出てきたかというやはりアメリカだと思えます。1930年代の始めから企業の社会的責任を果たさなければいけないということが言われてきており、株式会社については2つの考え方がいまでもあります。1つは会社というのは、単なる金儲けをするための、もしくは経営するための機能だとすれば社会的責任というものはなく、株主の利益に集中すればいいという考え方です。もう一方は、会社というのは我々と同じ社会的な存在だということで、社会の中で一定の貢献をするべきで、社会的責任を果たすべきだという考え方もあります。総じて言いますと、アメリカはCSRについてはそれほど熱心ではなく、利潤のため、あるいは株主のために何かやらなければいけないという伝統的な考え方がいまだに非常に強く残っています。

一方ヨーロッパはアメリカとはまったく違います。ヨーロッパというのは元来お互いに助け合うという共同体志向が強く、企業には社会的責任があると、企業というのは社会的な存在であるから個人と同じように社会のために責任を果たしていくべきだという考え方が伝統的に強いわけです。ですから、単なる寄附や社会的貢献というのはCSRではなく、1人の社会的な存在であれば、企業もその責任をしっかりと果たしていくべきだということです。EUが2004年に定めたCSRの定義があります。「CSRというのは、法的要請や契約上の要請を超えて、環境面および社会面での考慮を自主的にビジネス活動に統合すること」です。つまり、ここで言っていることは、企業は自分の仕事の中で、仕事の一環として、仕事の1つとしてCSR、社会的責任をしっかりと果たしなさいということです。そして、それをより具体的に言いますと環境と社会の面だと言っています。まさに環境福祉学会のものとEUの定義がぴったりと一致しています。

次にこのような国際的な流れを受けて、日本でも社会的責任は1970年代に言われるようになりました。日本の企業の動きを見ますと、ヨーロッパとは少し違い、企業のトップが熱心なところは非常に熱心に取り組んでいます。

そして、社会的責任に関する国際基準「ISO26000」が2010年11月にできました。このISO26000の究極的な目的は、企業の発展や社会の発展ではなく、世界全体が持続可能な発展を実現することが目的になります。社会的責任の主な構成要素は、企業統治、



炭谷 茂 氏

人権、労働慣行、環境、公正な事業慣行、消費者課題、そしてコミュニティへの参画とコミュニティの開発という7項目を掲げております。この7項目が企業や団体においての国際的な社会的責任の教科書といっても間違いのないと思います。社会的責任とは何だろうと考える場合、まっさきに参照すべきものはこのISO26000です。

そこで我々福祉学会の中からどのようにしてCSRへの貢献ができるのかということについてお話しいたします。まずは、理念の共通性です。ISO26000を見ればおわかりのように、なぜCSRをやるかといいますと持続可能な発展を目指すということであり、これはまさに環境福祉学でも同じです。社会だけではなく、1人ひとりの個人の生活、人生もそうです。自分だけがよければいいではなく、次の世代も続くような生き方をしなければいけないと思います。また、環境福祉学は環境と福祉の2分野を研究対象の中心にしているわけで、ISO 26000でも掲げてありますように、その中核的なものは環境と福祉です。したがって、環境福祉の実施なくしてCSRの実行はありません。ですから、その効率的・効果的な方法を環境福祉という立場で研究もしくは実践すれば、CSRを果たしたことになるのだと思います。すべての団体・組織が実行しなければいけないことが社会的責任です。グローバル化した今日の社会で活動するためには社会的責任を果たさないような組織は、それは行政であろうが、NPOであろうが、企業であろうが外国に行ったら相手にされません。そして、我々環境福祉学としては、どういうふうにしたらいいか具体的な方法を研究し、企業や団体や行政に対し助言ができるし、求められると思っております。



「環境福祉」と国際標準の CSR —伊藤園を例にして—

株式会社伊藤園取締役 CSR 推進部長
笹谷 秀光 氏

当社伊藤園は「お〜いお茶」等を販売していますが、現在清涼飲料は3兆7000億円市場で、3800億円が緑茶飲料の市場です。当社では、日本のお茶葉の25%を使っています。

社是の「お客さまを第一とし、努力を怠らず」そしてここですが、「信頼を得るを旨とする」という表現が1966年の創業以来あり、ここが社会からの信頼、企業の社会的責任につながる表現となっております。

ISO26000のCSRと称するものはどういうことかといいますと、私の理解では企業にとっての持続可能性は来年も再来年も継続的に成長していきたいと、「お〜いお茶」をつくっていききたいということです。持続可能は「社会・環境」とはWin-Win-Win関係、トリプルWinでみんなが三方良しということになってきます。

ではISO26000のCSRですが、ISOには、7つの原則と活動範囲、それから本業をやりましょうということが書いてあります。本業CSRの時代になりますと、パートナーシップを求めながらみんなでやりましょうという時代になってきています。これを生かすメリットは国際標準であり、使い勝手のいいガイダンスであり、それぞれの組織がうまく使えるということです。7つの中核主題はひととおりやるのですが、非常に得意であれば環境に力を入れてもいいですし、コミュニティ活動に力を入れるということでもいいわけです。そのようにうまく使ってくださいというところが非常にいいところです。

7つの中核主題は「人権」、「労働慣行」、「環境」、「公正な事業慣行」、「消費者課題」、「コミュニティ」、そして「組織」となっています。伊藤園はこの全体を基本的に全部やりますが、伊藤園の得意なところを強化してやりましょうということを決定して、世界のティーカンパニー目指しております。

実例を挙げますと、まず、環境にやさしくというところからスタートします。伊藤園では「お〜いお茶」をつくるのに、まず原料を調達します。企画して、ここで茶殻がたくさん出ます。そして販売し、消費者に届きます。この中の原料調達のセクションのところでは、大分県にある20ヘクタールの日本一の茶畑を農家の方と、産地育成事業を実施しています。元は桑畑で後継者もないこともあり耕作放棄地でした。いまは「おいしいお茶は、いい畑から」ということで、10分の1はこういった茶畑からできるようになりました。産

地育成事業は、原料を安定的に調達することができます。農業経営が安定しました。そして、社会の中で自給率向上や耕作放棄地やイノシシ退治ができています。そういう意味で非常にうまくいっているなと私どもは認識しています。



笹谷 秀光 氏

次に茶殻のリサイクルです。茶殻の封筒や脂取り紙を作っています。茶殻を一番使っているのが段ボールです。「お〜いお茶」の500ミリペットを入れている段ボール箱2500万ケース全量が茶殻の漉き込みのものです。何がいいかといいますと、茶殻は4万7000トンも出ます。これは名古屋市1カ月分のゴミ処理量に近い量です。ですから、これを何とかしたいということで始めたわけです。茶殻の含有量は約10%で、パルプのドロドロのところドロドロと入れます。それで十分に環境配慮の3つの効果、そして香りの効果も出てきます。これは本業の中でやっていまして、伊藤園としてはコストを削減することができ、CO2を出さず、そして付加価値商品ができ、さらに省資源・リサイクルという構造になっています。これらは、本業をやっているところで無理がなく、1人でやっているわけではなく、全部関係者と協力してやっています。

次に伊藤園のいくつかの「人にやさしい」取り組みをご紹介します。まずは「おぎゃー献金」で、伊藤園の自動販売機で、広告欄になっているスペースがあり、そこを色々良い事を行っている団体に提供し、150円の何%かを決めて献金しています。それから「ユニバーサル自販機」です。これらは企業イメージ、認知度向上、思いやりです。

それからもう1つは、仮設住宅などにおいての「お茶っこ会」の開催です。陸前高田市では、同市社会福祉協議会にご協力をいただき、既に50回ぐらいお手伝いさせていただいております。笑顔と元気のためにコミュニティの再生を手伝いたいということでしたが、お茶の淹れ方のセミナーをできる茶資格を持っている社員が1200~1300人いたからできました。

「お〜いお茶」で明日も元気に笑顔になるでしょうか。私はなると希望しています。我々は201カ所の支店がありますので、コミュニティへの感度を常に磨き、環境と福祉の融合ということではいろいろな芽が出てきていますので、勉強し知恵を拝借させていただきまして今後も展開していきたいと思っています。

「近隣保育園との交流」

株式会社スパット北上施設管理部部長
庄子 生知 氏

今回、近隣にある保育施設に「ウッディトレイン」というものを子どもが寄贈させていただきました活動を評価していただきました。北上の隣町の花巻の保育園で新しい遊具の入れ替えが発生し、予算も付きましたので古い遊具を撤去して、処分してもらいたいという依頼がありました。その場に営業担当が向かいまして、はじめは撤去・処分が話が進んでいましたが、代表取締役の千葉がその写真を見たときに、「これはなぜ生かせないのか、なぜ廃棄物と決めるのか」と言い、そこからプロジェクトが始まりました。

我々は廃棄物処理業者ですが、その廃棄物を生かしていくというのは我々の永遠のテーマでもあります。つまりリサイクル化です。それは形を変えて新しい命を吹き込むという方法もあると思いますが、要らなくなったものの自体をほかに欲しい人がいるのではないかと、諸事情でなかなか買えない人たちがいるのではないかと、そういった方々に使っていただくという方法もあると思います。たしかに最初に見たときは木の部分が腐食しているし、鉄の部分は錆びていましたからそのままでは寄贈はできませんし、安全基準も法改正によって厳しくなってきたなかそぐわれない点もありました。そこで遊具を取り扱う業者さん、それから専門の施行屋さん、木工屋さんにご協力いただき、いろいろな知恵をいただき、いまの基準に適合した立派なものをつくっていただくということで、こ

のウッディトレインの寄贈というプロジェクトがスタートしました。

我々も実際にやりながらだんだんと興奮を覚えました。役に立つということではないのですが、自分たちのやっていることの集大成、1つの形がこれではないかという思いからです。先ほども言



庄子 生知 氏

いましたが、我々は産業廃棄物処理業者で、処理をしてお金をいただき、そして最終処分場ないしリサイクル化してお客さまに提供するというのが当たり前の流れですが、処分したいというお客さまに事情をお話して処分費は頂かずに、我々が持っている知識やネットワークを利用して、1つのものを作り上げ、それを欲しいと言ってくれた近くの保育施設に設置しました。立派なことをしたということではないのですが、ものすごい達成感がありました。

現在も健在で、検査を更新しながら、子どもたちはいまでも遊んでくれています。

いままでCSRについては感覚的な考え方でしたかありませんでしたが、CSRの理論的な考え方と定義があって、それら进行评估するというので、本当に今日は収穫がありました。岩手の北上に戻って、我々スパット北上だけではなく、いつもお世話になっている作業員さん、そして元請けさん、協力業者さんとも一緒になっていろいろな活動をしていきたいと思っています。

■ 環境福祉学会組織役員

会 長 :	江草安彦	社会福祉法人旭川荘名誉理事長 川崎医療福祉大学名誉学長
副会長 :	伊藤達雄	名古屋産業大学名誉学長 鈴鹿医療科学大学客員教授
	潮谷義子	日本社会事業大学理事長 前熊本県知事
	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長 元環境事務次官
理 事 :	泉谷直木	アサヒグループホールディングス株式会社代表取締役社長
	植田和弘	京都大学大学院経済学研究科教授
	長田逸平	クライシスマネジメント協議会理事長
	寺田清美	東京成徳短期大学教授
	波田幸夫	環境新聞社代表取締役社長
	萩原元昭	群馬大学名誉教授
	花澤義和	NPO 法人エコリンク21環境国際総合機構理事長
	藤田八暉	久留米大学経済社会研究所所長
	松寿 庶	福祉新聞社代表取締役社長
	安川 緑	金沢大学医薬保健研究域保健学系看護科学領域准教授
監 事 :	永井伸一	獨協医科大学名誉教授
	伊澤敏彦	NPO 法人環境資源開発研究所所長
事務局長 :	小峰且也	環境新聞社専務取締役
事務局 :	酒井 剛	環境新聞社事業部部長

事務局 だより

今年の年次大会は、「激動する日本経済下の環境福祉」をテーマに開催します。

記念講演では、山本良一東京大学名誉教授による「“未来を拓くエシカル購入”」という演題で講演頂きます。

エシカルとは、「倫理的」「道徳上」という意味の形容詞で、英語圏を中心に倫理的活動を「エシカル○○○」と表現し、エシカル「倫理的＝環境保全や社会貢献」という意味合いが強くなっています。

また、パネルディスカッションにおいては、「日本経済と環境福祉」と題する炭谷茂副会長による基調報告と、北陸グリーンエネルギー研究会及びいばらぎ自然農塾の取り組みの紹介のあと討論となります。

ぜひ、会員皆様のご参加をお待ちしております。